

水稲用初・中期一発処理除草剤

ゼータプラス[®]

200FG

ドローンでの散布に適した新規製剤



雑草へ、
猛突進。

オモダカ
クログワイ コウキヤガラ



本剤は(公財)日本植物調節剤研究協会での
A1S区分:難防除雑草一発処理(オモダカ・クロ
グワイ・コウキヤガラ)で判定を取得しています。



エフィーダ[®] 配合
問題雑草に広く効く!!

動画公開中▼



2
成分

ノビエ
4
葉期



ノビエ



ホタルイ



クログワイ



オモダカ



コナギ



イボクサ



ミズアオイ

水稲用初・中期一発処理除草剤

有効成分

フェンキノトリオン…15.0%
プロピリスルフロン…4.5%

除草剤分類 27,2

ゼータプラス[®] 200Fg

- ◆ 2成分の一発処理除草剤（フェンキノトリオン、プロピリスルフロン）
- ◆ 高葉齢のノビエ（4葉期）を始めSU抵抗性雑草に優れた効果
- ◆ 多年生難防除雑草オモダカ、クログワイ、コウキヤガラに高い効果



適用と使用方法

2024年3月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草、 エゾノサヤヌカグサ	移植後3日～ ノビエ4葉期 ただし、 移植後30日まで	200g/10a	1回	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用 又は 無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ミズガヤツリ、ウリカワ ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類 による表層は離	稲1葉期～ ノビエ4葉期 ただし、 収穫75日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内

プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数
2回以内

主要雑草に対する使用適期

ホタルイ、ウリカワ ヘラオモダカ	3葉期まで
ミズガヤツリ	草丈25cm以下まで
ヒルムシロ	発生盛期まで
セリ	再生期まで
エゾノサヤヌカグサ	2葉期まで
オモダカ	発生前からヘラ葉期まで
クログワイ	発生前から 草丈15cm以下まで
コウキヤガラ	発生始期から 草丈35cm以下まで
シズイ	草丈3cm以下まで



本剤は（公財）日本植物
調節剤研究協会での
A-1S区分：難防除雑草
一発処理（オモダカ・クロ
グワイ・コウキヤガラ）で
判定を取得しています。

上手な使い方

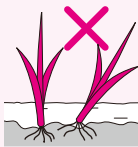
均平化作業・植付けはていねいに！

田面が凹凸していると薬剤が均一に広がらず、効果不良・
葉害の原因になる
ことがあります。



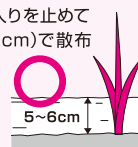
移植深度は適正に！

極端な浅植では根が
露出し葉害原因とな
ります。根が土壤中
に隠れるよう、適正な
移植深度に田植機を
設定してください。



散布時の注意！

散布の際は、水の出入りを止めて
湛水状態（水深5～6cm）で散布
してください。また、
極端な浅水や深水
での使用はさけて
ください。



散布後の注意！

散布後3～4日間はそのまま湛水を保ち、
田面を露出させないよう
にし、散布後7日間は、落水、
かけ流しはしないでくだ
さい。また、入水は静かに
行ってください。



使用上の注意事項

- 雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失しないように使用してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果がふれが出るので、必ず適期に使用するよう
にしてください。
- 藻類または表層は離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植え付けが均一になるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行ってください。
未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行ってください。
- 湛水散布または湛水周縁散布にあたっては、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の
出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、
散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、
水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。自然
減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入
れて水口を閉じてください。
- 水口施用の場合は、あらかじめ2cm程度水深を確保した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、
流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態（3～5cm）に達した時に
必ず水を止め、田面水がふれ出ないように注意してください。散布後、少なくとも3～4日間は
通常の湛水状態（3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 藻や浮き草が多発している水田では拡散が不十分となり、部分的な葉害や効果不足の可能性が
あるので使用をさけてください。
- 稲の根が露出する条件では葉害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 以下のような条件では葉害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。
①砂質土壌の水田および漏水の大きな水田（減水深が2cm/日以上）。
②軟弱な苗を移植した水田。③極端な浅植えの水田。
- 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用をさけてください。
- 吸湿性があるので、散布時に降雨時には濡れないように注意して散布してください。
濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早めに使用してください。
- 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用してください。

- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがある
ので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
 - いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
 - 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の湛水に用いないでください。
 - 散布薬剤の飛散によって、他の作物に葉害等の被害を与えるおそれがあるので十分注意してください。
 - 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて
使用する場合は異常気象時は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
 - 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に
影響を与えないよう適切に処理してください。
 - 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。
- ＜散布時の注意＞
- 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田
周辺部への飛散防止のため、圃場の端から7.5m以上離れた位置から圃場内に散布してください。
 - 周辺環境への散布薬剤の飛散を低減するため、以下の点に留意してください。
①風向きを考慮して飛行経路を設定してください。
②空中散布の実施は、気流の安定した時間帯に、かつ、地上1.5mにおける風速が3m/s以下
の場合に行ってください。
③飛行高度は作物上2m以下の範囲で行ってください。
④他作物や有機農産物の生産圃場および散布対象以外の作物等に被害が及ぶおそれのある
ところでは散布しないでください。
⑤散布対象以外の作物やハウスに向けて飛行させないでください。
 - 飛行する農地周辺に接近する可能性のある人や車両へのドローンの衝突リスクを回避するため、
飛行区域の外側に緩衝区域を設定してください。
 - 「産業用マルチローター 安全対策マニュアル（作成：一般社団法人 農林水産航空協会）」の
留意すべき事項を遵守せず散布した場合、散布薬剤の飛散によって他の作物に葉害等の被害
を与えるおそれがあるので、十分注意してください。

●使用時にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

06R3C24Z7:ZS

2024年3月作成

農薬・肥料に関する
総合情報サイト「i-農ら」や
各種SNSはこちら



住友化学

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

お客様相談室 0570-058-669

（または ☎03-6630-3322）